地頭のルーツ探しを地域に還元

埼玉大学提供
作成日　2016年 3月10日
更新日　2016年11月21日

研究者氏名	所属機関	関連キーワード（複数可）
清水（しみず）　亮（りょう）	埼玉大学教育学部	地頭、館、軍事的テリトリー、荘園権益、鎌倉幕府

主な研究テーマ
・鎌倉幕府地頭請所・下地中分の再検討
・鎌倉幕府地頭職と軍事的テリトリーの関係
・中世前期における武士の拠点研究

主な採択課題
・若手研究（スタートアップ）平成19・20年度（配分総額：2,661千円）
　課題名「末期鎌倉幕府特権的支配層・鎌倉幕府直轄領の総合的研究」
・若手研究（B）平成21～24年度（配分総額：4,680千円）
　課題名「中世前期における地頭支配の歴史的意義に関する総合的研究」

① 科研費による研究成果

1：鎌倉期の地頭が、請所（一定額の年貢を上納することで現地支配権を確保する方式）や下地中分（現地支配権を上級領主と分割しあう方式）によって、荘園・公領の支配を進める、という理解への疑問。
→まず、地頭請所・下地中分に関する史料を収集し、今後の研究の基礎を形成した。
2；地頭請所が、飢饉や治承～鎌倉前期の合戦・紛争等の戦後処理と結びついて成立したと考えられる事例、民衆救済（「撫民」）を理由に成立した事例を見いだす。
→地頭請所が持つ社会的機能（戦争・災害からの民衆救済、荘園・公領の復興）について追究する必要性の発見。
3：鎌倉初期の幕府が設置した地頭の多くは、敵対者の権益であったことがこれまでの研究で既に明らかにされている。
→本研究では、九州地方の事例を検証し、地頭の前身となる荘園・公領の権益・職務には、下司・郷司などにとどまらず、前任者（敵対勢力）が形成したナワバリ　（軍事的テリトリー）と結びついた権益があったことを論証。
4：3の成果と関連して、地頭の多くを占める東国武士の本領の拠点とナワバリ（軍事的テリトリー）の実態を解明（武蔵国畠山氏を中心とした武蔵武士が主な対象）。

② 当初予想していなかった意外な展開

・検討の対象とした畠山重忠は著名な鎌倉武士。
→埼玉県下を中心に、畠山氏・武蔵武士にかかわる講演・シンポジウム等の依頼（2012年～2016年初めまでに7件実施）。
・埼玉大学連続市民講座（2015年7月18日実施）にあたってメディア取材を受け、研究・講演の内容を解説。講演当日の様子も報じられた（『読売新聞』埼玉版2015年7月16日・同23日朝刊）。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

さらに鎌倉幕府地頭請所の再検討を行うことにより、鎌倉時代の荘園制における地頭の役割に迫ることができる。

また、現地調査等を通じて武士の拠点、社会的機能を復原・解明していくことにより、各地域の「中世」を見つける手がかりを提示し、さらに学校教育・市民教育の題材にも発展させることができる。